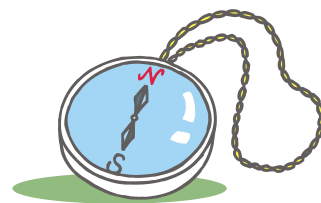


羅 針 盤



第 5 号 令和8年5月11日（月）

◆ 『いじめ・いのちについて考える日』

柴島中学校では、学校のめざす生徒像の一つとして、「自他への思いやりのある生徒」を掲げて日々の教育活動を展開しています。生徒の皆さんも十分に理解していることとは思いますが、「いじめは生命をもおびやかす行為であり、人間として絶対に許されない行為」です。仲間はずれや、冷やかし、あるいは、からかい、誹謗中傷、・・・、自分がされて嫌なことは、誰がされても嫌なことです。「いじめ」は、絶対に許されるべきことではありません。生徒の皆さんの誰もが、安全で安心して学校生活を過ごす権利を持っています。常に相手の立場に立って物事を考え、友だちが抱えている課題を自分の課題として捉えることや、時と場合によっては、学級や学年、学校の課題として考えることが何よりも大切なことです。課題の解決に向けて、共に考え、協力し、支え合えることが大事なことです。全ての人々が持つ人権を守ることや、誰もが生きていく権利を有することを、当たり前なことではあるけれど、今一度しっかりと振り返りながら、考える時間を持ってもらいたいと考えています。また、併せて、「生命の尊さ」についても深く考える機会を持ってもらえればと思います。日頃の何気ない活動の中からも、時には思い悩むようなことは誰しもあり得ることです。一人で悩みを重たく抱え込むのではなく、いつも近くにいてくれる人を信頼し、思い悩んでいることを話すことで、必ず解決する方法を見つけ出せると思います。生徒の皆さんの一人ひとりが、誰もがとても大切な存在であることに気が付いて、自分の存在価値を肯定的に捉えて、学校生活を過ごしてほしいと考えています。

保護者の皆さま、「いじめ問題」に限ることなく、ご家庭で何かお困りのことがありましたら、些細なことでも構いませんので、学校の方へご相談ください。学校にできることも、確かに限界はあるとは思いますが、保護者・地域の皆さまとしっかりと手を携えて、子どもたちにとってより良い教育活動や一人ひとりの子どもたちにとって少しでも多くの支援ができる活動を展開して参りたいと考えています。（校長 坂井 伸治）

◆ 「命のバトン」

5月の第二日曜日は、「母の日」です。（今年は、昨日の5月10日でした。）生徒の皆さんも、生まれたときには、きっとお母さんは大変な思いをされたことだと思います。皆さんは、自分が生まれたときのことを聞いてみたことがあるでしょうか。「体重が少なくて保育器に入っていたんだよ」とか、「元気な泣き声を出さずに、心配したよ」とか、「へその緒がからまって、生まれてくるのに時間がかかったんだよ」などと言われた人もいるかもしれません。一つの命が生まれてくるということは、命がけで、とても尊いことです。そうやって、生徒の皆さんの一人ひとりが、お父さんとお母さんからの命のバトンを受け取って、「今ここにいる」ということです。私たちの誰もがみんな両親からの、そして、その両親もまた、それぞれの両親から、命のバトンを受け取って、「今ここにいる」のです。たくさんの人たちから受け継いできた「命のバトン」それは、かけがえのない、たった一つの命であるということの証です。一人ひとりが「命の大切さ」というものに、心から気づいてほしいと思います。

